

創建 そうこん

- 平成22年度建築学科就職状況の概要・1
- 求人企業数・就職者数都道府県分布・1
- 業種別就職者数と応募区分・2
- 就職先内訳・2～3
- 平成22年度卒業・修了生就職活動報告・4

2011・7・1 VOL.46 NO.2 (通巻138号)

■ 日本大学・工学部・建築学教室 ■

■概況■

平成22年度は昨年度から続く景気低迷の影響を受け、求人数が若干減少し、学生にとっては非常に厳しい就職活動となりました。3年次生の前期から就職活動に取り組み、自己分析と業界・企業研究を熱心に行う学生ほど、早期に内定を得ているようです。

平成22年度は学部と大学院を合わせ計161名の就職希望者に対し、就職者が154名、就職率95.7%となり、全国平均就職率約91%と比較すると非常に良好な結果となりました。

図1には、工学部の求人企業数の本社所在地と就職者数の都道府県分布を示しましたが、建築学科の求人企業971社のうち約半数が、東京本社企業です。福島・宮城・山形の南東北や新潟からも多くの求人があります。

就職者のうち約25%は東京に本社をおく企業ですが、それよりも多い約28%が東北の企業に就職しています。特に地元福島県の企業に就職した30名のうち29名が福島県、また宮城県

業に就職した15名中、14名は東北地方出身者です。今年度は北関東を中心とした関東地方への就職者が約22%と非常に多くみられます。地元志向の希望も叶う結果となり、77名(約50%)もの学生が地元企業に就職しました。一方、約1/3の学生は、従業員数500名以上の大規模企業に就職しましたが、上場企業へは約25%と例年よりも少なく、地元志向の影響が現れています。

また大手総合建設業(ゼネコン)では、ここ数年の傾向として日本大学工学部OBが窓口となるリクルーター制による採用活動が活性化しています。表1には応募区分による就職者数の内訳を示しましたが、内定後に推薦書を提出する企業が年々増加する傾向にあります。再び就職氷河期を迎えた今こそ、工学部求人検索システムCSNaviや、SPI対策講座をはじめとする工学部独自の就職活動支援を大いに活用し、多くの卒業生が建設業界で活躍している日本大学工学部の優位さを味方につけた就職活動を期待するところです。

■就職・進学先の内訳■

全進路先を9業種ごとにまとめ、表2に示しました。工学部就職セミナーに参加した企業に約30%の41名が就職しています。例年よりも若干割合が低くなりましたが、2月上旬の就職セミナーまでに企業研究を綿密に行い、志望企業への熱意が伝わるエントリーシートを作成し、十分なSPI試験対策や面接練習をするなど、早期から積極的に臨む姿勢が就職内定に結びつきます。

業種の内訳は例年どおりの傾向ですが、建設業界の景気が厳しかったこともあり、建設業とは異なる業種への就職者が増加しました。設計事務所就職者の割合も増加しました。

景気に左右される就職活動ですが、数年後に後悔しないよう、自分の将来をしっかりと見据え、日頃から自分を磨く努力を忘れずに充実した大学生活を送りましょう。過剰な情報に惑わされず、正しい情報を収集して臨んでください。(文責：市岡)

	求人企業数(社)	%	就職者数(名)	%
東京	455	43.3	43	24.7
関東	149	14.2	39	22.4
北海道	11	1.0	1	0.6
東北	115	10.9	48	27.6
甲信越	38	3.6	15	8.6
東海	59	5.6	3	1.7
北陸	24	2.3	0	0.0
近畿	80	7.6	5	2.9
中国	17	1.6	0	0.0
四国	5	0.5	0	0.0
九州	17	1.6	0	0.0
沖縄	1	0.1	0	0.0
未定			7	4.0
計	971		161	

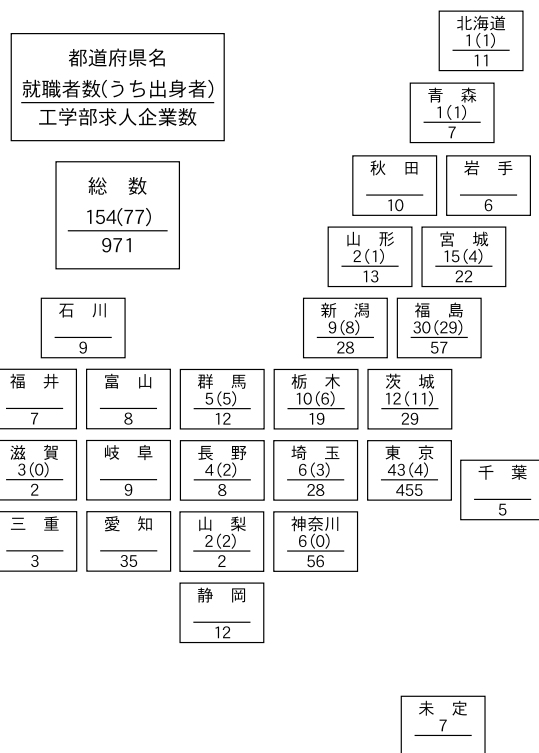


図1 都道府県別の工学部建築学科求人企業数と就職者数 (*注 グレー表示は求人企業がない県を示す)

